

連盟の徽章が表わすもの

連盟が流祖の重大な決意のもと、新たな出発をした時、「和道流」を表題とした新聞を発行したことを、若い会員は御存じないでしょう。昭和56年12月8日に創刊号が出たのです。そこに「和之心」というコラムがありました。初心にかえる意味で、これを引用したいと思います。連盟の徽章についての話です。

「（連盟の徽章に鳩丸がついているが、）鳩は平和の象徴という一面と共に、八幡宮の使いとしても知られている。古来、宇佐と石清水を頂点とする八幡宮は、伊勢神宮と並んで朝廷の厚い尊崇を受け、武門の守護神としてあがめられて来た。鳩こそ和魂（ルビにぎみたま）と荒魂（ルビ あらみたま）とをあわせ持つ、いわば文武兼備の象徴といえようか。〈武の道はただ荒事とな思ひそ 和の道究め和を求む道〉との最高師範の教えの歌の意味にもつながろう。神道揚心流に源を発する、日本武道の精華である和道流にふさわしい」

これが連盟再出発の宣言だったのです。

新年早々から、オミクロン株という変種が猖獗（ルビ しょうけつ）を極め、日本中で又社会生活に影響が出始めました。この先、オミクロンの流行状況によっては、全国大会、研修会・講習会の開催にも影響が出てくるかもしれません。しかし、これに屈することなく、日々の稽古を続けることこそ、我々に課された使命なのです。百錬し千鍛して、和道流の神髓に近づく努力を重ねようではありませんか。

令和四年二月